

知見の囲炉裏端

これからの時代の最強の兵士はゲームオタク？



技術経営士の会 潮田 邦夫



ウクライナとロシアの戦争は当初予想より長引き、1年以上になります。

21世紀になり国と国との戦争になるとは（それも世界第二の軍事大国でかつ国連の常任理事国）思いもよりませんでした。

グローバル化が進み、世界の人々は前世紀には考えられないほどの交流が進みましたが、人と人の殺し合いが続いています。とても残念なことです。ロシアの侵略がなくなり、ウクライナに早く平和が訪れることを願っています。

今回のウクライナの戦い方で、今までとは大きく変わったことがあります。それは戦場でのドローンの活用です。ドローンといっても多様で、小型の偵察用、中型の自爆型ドローン、塹壕の兵士を狙って上空から爆弾を投下するドローン、そして大型のドローンで小型ロケット弾を積み発射して戻ってくるというドローンのもので多様です。映像でウクライナの兵士が上手にドローンを使っている様子が出てきます。小型偵察ドローンはタブレット端末で操作し、中型、大型ドローンは自動車などでの移動ができるコントロールセンターで遠隔操作し、あたかも電子ゲームの様相です。

今までの戦場に望まれていた強い兵士は、大きく筋骨隆々で元気な若者（猛者）だったようでそのように訓練で鍛え上げられてきました。

しかしこれからは、電子機器を使いドローンを柔軟に操作できる、ゲームオタクの兵士が活躍しそうな気がします。数キロ離れた位置からドローンを柔軟にコントロールし遠隔で敵を蹂躪する方法が主流になるのではないかと思います。

またロケットやアメリカのハイマースのように長距離の敵や陣地をGPSや映像認識して爆撃する敵と相対することのない攻撃も増えてきました。もちろん人と人の接近戦の戦いはあるとは思いますが比重は減ってくるのではと思います。核戦争はそれこそ世界の破滅であることは誰でもが理解できるので、戦争での使用はないと思います（そう願っています）。

日本でも、いざという時の兵隊は、ゲームオタクの兵士が一番望まれるかもしれません。

そのために、最近、eスポーツやゲームオタクの若者を毛嫌にするのはやめていたほうがいいかなと、思い始めたこの頃です……皆様方はいかがお思いでしょうか？